

電 気，ガ ス，水 道

本県の電力事情をみると、供給面では本県が地形的に河川の水量に乏しく、落差もないため水力発電に適さず、発電所と称し得るものがなく、僅かに活動する小規模発電所3ヶ所を合せても、その出力は300KWの応急或は電圧調整用電源に過ぎず、県内消費電力は遠く猪苗代湖発電所からの送電によるものである。しかし、今般千葉市外埋立地に、東京電力千葉火力発電所が400億円の巨費を投じて建設中であり、これが完成の暁には60万KWとして活動することとなり、本県も漸く有力な電力供給源を持つこととなつた。

電力需要面では年々消費量が増大し、特に電力用消費は全消費量の67%を占めており、昭和28年に比して昭和31年は38%増加し、電灯用消費の増加率9%をはるかに凌いでいる。

ガスについては需要者が都市にある性質上、県下全戸数の約3%が利用しているに過ぎない。そのうち53%が一般家庭用のものである。

本県の上水道事業の歴史は比較的新しく、昭和11年千葉市に初めて県営水道が布設され、以後引續いて拡張が行われた。また県下の市町村においても、戦後環境衛生上の見地から水道設備の新設拡充の努力がはらわれ、簡易水道の設置が進められ、給水人口も年々増加し、昭和31年には県人口の18%となつた。